

## 真に地域に根ざした高校として

勿来高等学校長 大沼博文

勿来地区には現在約5万人の住民が生活しており、いわき市総人口33万人余の約15%を占めています。一方、勿来地区にある高校3校(磐城農業・勿来工業・勿来)の平成26年度募集定員は合計480名で、いわき市内の県立高校全体(3,080名)に占める割合は約16%です。市内全中学校の現3年生全体に占める勿来地区の中3生の割合もやはり約16%となっています。私立高校や高専等への進学、あるいは他地域との出入り等もあるので流動的ではありますが、単純な人口比でいえば、勿来地区の高校3校で同地区の中学生をほぼ受け入れることが可能だということになります。

県内の各高校にはそれぞれの校風や伝統、特色があります。同じ学科であっても、教育課程(学習内容)が異なる場合も少なくありません。そして、どの地域に住んでいても自由に高校を選択できる権利はもちろん保障されなければなりません。しかし、本校が1学年80名の定員であったとしても、地域に根ざし、地域に貢献できる人材を育てる高校として、勿来地区における存在意義は決して小さくないと、私は考えています。

普通科を志望する勿来地区の中学生が、保護者に頼らないで自宅から短時間で通学し、安心して高校生活を送れる学校。それぞれの興味関心や適性に応じて普通教科や商業系教科を学び、進路実現の選択肢がより幅広く保障される学校。地域のこうした期待に応え、磐城農業や勿来工業とともに、この地域の未来を担う若者を育てる役割をしっかりと果たしていく責任が、本校にはあります。

早ければ平成27年春、いわき養護学校高等部の分校が本校内に開校されるのを機に、これまでの本校の伝統を受け継ぎつつ、新しい校風を創造していくことが私たちの使命であると考えています。保護者、同窓生はもとより地域の皆様からも御意見を寄せていただきながら、教職員が一丸となって、勿来地区の中学生や保護者、住民の期待に応え、より一層信頼される学校づくりに努めてまいります。

## 内閣府特命担当大臣より社会貢献青少年表彰を受賞しました！

11月25日(月)に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、勿来高校関の子ボランティアが社会貢献青少年表彰式で内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。本校生徒の代表として、前生徒会長の佐川竜一君が壇上で岡田広内閣府副大臣から表彰状の授与を受けました。県内で受賞したのは、本校と防犯団体の2団体だけでした。



「勿来高校関の子ボランティア」が「関の子広場」の方々とともに、震災後、福島県の海水浴場において唯一オープンした勿来海水浴場や駅前等の清掃活動に継続的に取り組むほか、いわき南警察署や関係団体と連携して、防犯活動や交通安全活動など様々なボランティア活動に積極的に取り組み、安全安心なまちづくりのために貢献していると、地域に対する継続的なボランティア活動が認められ、受賞しました。受賞したことで一層身の引き締まる思いです。今後も本校では、ボランティア活動をはじめ、地域の方々とともに貢献活動を行ってまいります。

## いわきシーサイドウォークボランティア活動



11月2日(土)にいわきシーサイドウォークが開催され、本校からは運営スタッフとして13名の生徒が参加しました。

本校生は勿来海水浴場市営駐車場で、会場の設営や駐車場案内、募金活動を行いました。また、ゴールした参加者には、本校生が打ったそばを振る舞い、大変好評でした。

県内外から多くの方が参加したこのイベントに運営スタッフとしてボランティア活動ができたことは大変うれしく思います。

今後も地元为学校として、地域の方々に貢献できる活動を行って参ります。



## 図書部絵本読み聞かせ体験学習



11月14日、15日の2日間、勿来リズム幼稚園において、12名の生徒が絵本読み聞かせを行いました。この体験学習は、本校の図書部が主催し、保育に関心がある生徒や幼稚園児と触れ合いたい生徒に絵本の読み聞かせを通して、読書の楽しさや子供との触れ合い方を体験させ、人間的な成長を図ることを目的として、継続的に行ってきた活動です。

11月14日は、男子4名が参加し、手遊び歌の後に絵本の読み聞かせを行って、最後に折り紙で作ったカエルを子供達にプレゼントしました。

15日は、男子3名、女子5名が参加し、絵本の読み聞かせをした後、演劇部が手作りした紙芝居をそれぞれの役になりきって演じました。読み聞かせをしているとき、子供たちは真剣なまなざしで静かに聞いてくれました。また、読み聞かせ終了後は子供たちが駆け寄ってきて、楽しく交流することができました。

今後も、幼稚園のご協力をいただきながら、このような活動を通して生徒の人間的な成長を図っていきます。

## 「仕事人の話を聞いてみよう」(1年)、「合格体験を聞く会」(2年)



12月6日(金)5校時に、1学年はいわき市高校生就職支援事業の一環として「仕事人の話を聞いてみよう」というテーマで、仁愛会と訪問カット・ハピネスの方々から働く意義について講義を受けました。生徒たちは今後の進路選択について、大変参考になりました。

また、2学年は合格体験を聞く会を視聴覚室と物理室で行い、2年生は、合格した3年生から高校3年間で取り組んできたことや受験するにあたり考えてきたことなど、合格体験の具体的な話を聞き、これからどのように取り組んでいけばよいのか、何を準備すればよいのか等、今後の高校生活の過ごし方について大変参考になりました。

## 理科研究部水質調査結果 (第1回)

理科研究部では、1996年より学校周辺の河川の水質調査をおこなっています。特に、蛭田川の水質は県内でも下位に位置づけられており、理科研究部では水質調査を通して環境改善を図っていきたくと考えています。地域の方々にも蛭田川の現状を知って頂きたく、この紙面にて調査結果を報告して参ります。

水質調査では、試薬の色の変化で水質が分かる『パックテスト』を使用しています。パックテストで測定できる『COD』と呼ばれる指標は、水中の有機物の量を示しており、本校から下流の蛭田川では、汚れに強いコイやフナでも息が難しいという結果が出ています。蛭田川の水質改善のため、ご家庭からの生活排水の抑制にぜひご協力ください。



## <平成25年度の進路状況について> (平成25年12月10日現在)

平成25年度卒業予定者の進学・就職等の進路決定者数は右の通りです。就職の内定率は82.5%、進学決定率は93.3%で、昨年度同時期よりも就職内定率は向上しています。

これは本校の落ち着いた環境の中で、生徒が進路実現に向けて努力を重ねるとともに就職促進支援員が企業訪問で企業開拓をしてきたことによる成果であると思います。

<主な合格校名>いわき明星大(表現文化、心理)、いわき短大(幼児教育)、いわきコンピュータカレッジ、いわきアミカアカデミー、wiz国際情報工科大学校、国際ビューティーファッション、仙台コミュニケーションアート、東京IT会計専門仙台校、水戸メディアカレッジ、いばらき中央福祉専門

<主な企業名>いわき中部農業協同組合、クリナップキャリアサービス、かしま荘、日総フティいわき介護部、ケイアンドワイ、勿来温泉関の湯、増山歯科医院、やまたまや、セブイレブンジャパン、高崎クリーン、サブレットカントリークラブ、いわきエコパ、エックス、サンコープリント、佐川急便(順不同)

		種別	人数
進学	大学		2
	短大		1
	専門学校		11
就職			33

## <今後の日程について>

1月以降は、始業式や学年末考査、高校入試等、行事が続きます。日程をご確認下さい。

1月14日 始業式、基礎学力テスト(1,2学年対象)

1月28日 学年末考査(3学年～1月31日)

2月1日 自宅学習期間(3学年～2月27日、2月12日登校日)

2月3日 I期選抜(生徒登校禁止)